

JBAが目指す育成センター

1. 将来有望な選手を育てるための仕組み

JBAは、世界に通用するバスケットボールのために「世界基準を日常に取り入れる」「世界を目指す環境」「世界を視野に入れた指導を日常から行う」という強化・育成方針を示しています。これに基づき、優秀な素質を持つプレーヤーや可能性の高いプレーヤーに定期的に良い育成環境（練習環境・指導環境）を提供し、「個」を大きく育てることを目的に Development Center（以下DC）を設置しています。

U12世代の特徴は、小学校1年生から6年生の子どもたちでチーム編成がされ活動をしています。これだけの幅広い年齢差では、発育発達の観点から体力的にも精神的にも大きな差があり、練習も各年代に応じた工夫が求められます。そこでDCにおいては、普及と育成の観点から優秀な素質を持つ子どもたちを招集して練習を行います。練習に参加する子どもたちの多くは小学6年生であり、またスキルの高いプレーヤーが集まることで向上心やライバル心などが芽生え、さらにスキルアップすることが期待されます。

一方で将来有望なプレーヤーを育てるためには、コーチを養成することも不可欠です。そこで、ブロックDCではJBAよりスキルコーチ、スポーツパフォーマンスコーチを派遣し、各都道府県の育成コーチを対象にクリニックが展開されています。そのクリニックに参加した育成コーチは、各都道府県において地区DC育成コーチに伝達することでコーチの資質向上に繋がっています。また、ブロックDCでは保護者を対象にJBAの取り組み、発育発達の視点から子どもたちに対する理想的なサポートなどについてレクチャーを行います。このことからバスケットボールの理解を深めてもらい、バスケットボールファミリーの拡大を目指しています。

2. 発掘と育成

DCはブロック、都道府県、地区に設置されており、地区DCに参加した中から優秀なプレーヤーを選考し、そのプレーヤーは都道府県DCに参加します。さらに、都道府県DCに参加した中から優秀なプレーヤーを選考し、そのプレーヤーはブロックDCに参加します。このプロセスから子どもたちは、大きな目標を持つことで将来有望なプレーヤーとなってくれることを期待しています。

このような取り組みはU12カテゴリーだけでなく、U15、U18カテゴリーでも同様に行われていますが、各カテゴリーの特性を踏まえて目標が設定されます。U15、U18カテゴリーと年代が上がるにつれて強化が主眼とされますが、**U12カテゴリーでは「普及」「育成」を目的としています。特に地区DCでは、多くの子どもたちにチャンスを与える工夫が求められます。**

また、U12カテゴリーでのプレーヤー選考は個々の発育や発達の状況に大きな差があり、現状の発育状況だけでなく、バスケットボールスキルやIQを含めた将来性を見極めながら選考を行います。そのため、プレーヤー選考を担当するDC育成コーチはプレーヤーを公平に見極める力が必要であり、様々な知識や観点などについて情報交換や日々の研鑽に努めなければなりません。

3. 育成マインドの伝達

U12世代では、子どもたちが「心からバスケットボールが楽しい」と実感させることが重要です。スポーツは勝つことから「楽しさ」「達成感」などを学び成長も見られますが、「子ども」の意思や思考が含まれない「勝ち方」を指導する勝利至上主義では、子どもたちに本当の意味でのバスケットボールの楽しさを伝えることができません。この年代では、子どもたちの将来を見据えた指導が求められます。そのため、コーチは「個の育成の重視」すなわち「育成マインド」を持ち指導に携わることが不可欠とされます。

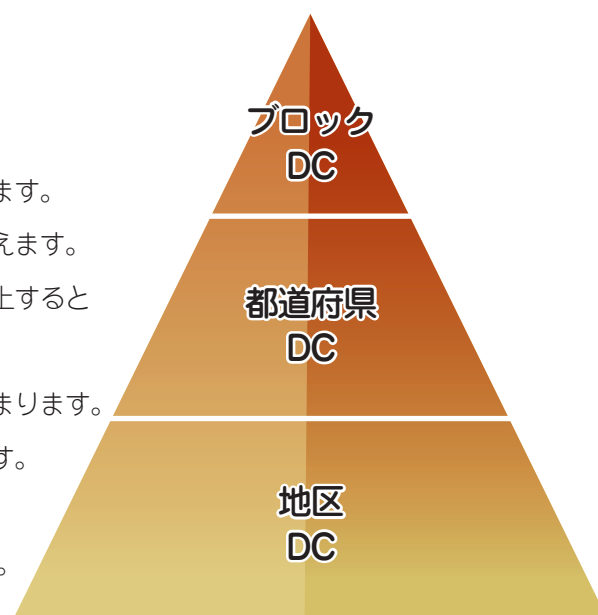
YOUTH DEVELOPMENT CENTER

JBAは一貫指導を目指してプロジェクトを組み立てていますが、年代の特性によってプロジェクトを変えます。



[U12 DC の特徴]

- ・チームで行われない練習を体験することができます。
- ・他チームの選手と練習することで競争心も芽生えます。
- ・主体性、社会性、コミュニケーション能力が向上すると考えます。
- ・様々な練習を体験することができ関心が更に深まります。
- ・練習に取り組む姿勢も変わることが期待されます。
- ・地区DC ⇒ 都道府県DC ⇒ ブロックDC
このプロセスから個々の目標が明確になります。



U12世代において地区DCは、普及を目的に行います。
そしてDCでは、「個」の力を伸ばすことを狙いとして取り組みます。